

直近の家庭用牛乳乳製品の販売状況の推移を毎週発信してまいります。

**お知らせ: 次回発信日は5月26日週報(予定)**

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

## 《～家庭内消費はさらなる不振のなか北海道の生産はピークへ～》

・5/9週の牛乳類の家庭内消費については、販売個数は全カテゴリともに前週(5/2)よりも減少した。牛乳については前年比90.5%と大きく下回っており、コロナ禍前の2019年と比較しても96.6%と低い水準となっている。ヨーグルト類については全カテゴリ総じて前週よりも販売個数は増加したものの、前年比では低調な水準が続いている。5/9週は消費地である関東・近畿を中心に平年よりも降水量が増加しており、気温の低い日が多かったことが消費減少要因の一つと考えられる。また、昨年は消費地である東京都を含めた6都府県で緊急事態宣言が適用されており、巣籠り需要の反動も相当量あると推察される。

・直近では現時点で新型コロナに係る制限措置は解除されており、観光地や繁華街等の人出が増加していることから、業務用需要の回復が期待されるものの、生活必需品や電気料金、燃料等の値上げなどの物価高によって家庭内消費への影響が懸念される。

・今後は季節的に北海道の生乳生産量がピークとなる中、飲用牛乳及びびっ酵乳の消費が低調であることから、乳製品の処理は予断を許さない状況が続くと見込まれており、低調な家庭内消費を底上げすべく引き続き消費拡大に取り組むことが重要となる。

### 【牛乳類の販売速報(推定値): インテージSRI+】

(1) 直近動向(表①参照)

・直近(5/9週)の販売個数(前年同期比)は、牛乳: 同90.5%、成分調整牛乳: 同93.4%、加工乳: 同97.2%、乳飲料: 同90.7%。

**牛乳類トータルでは同90.9%**

※参考: 2020年度比は、牛乳: 82.2%、成分調整牛乳: 82.9%、加工乳: 84.4%、乳飲料: 78.2%(牛乳類トータル: 81.7%)

※参考: 2019年度比(コロナ禍前)の牛乳販売個数は96.6%。

・販売単価は、牛乳: 189.9円、成分調整牛乳: 173.4円、加工乳: 191.1円、乳飲料: 149.7円。

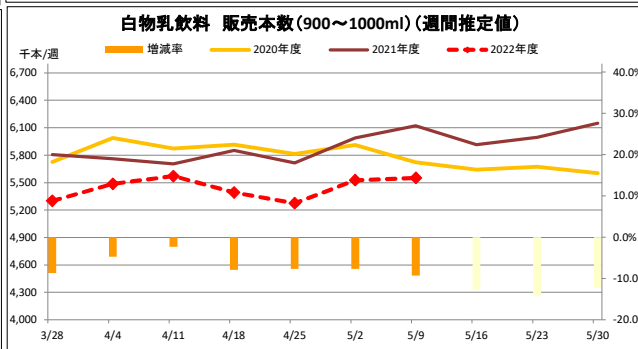
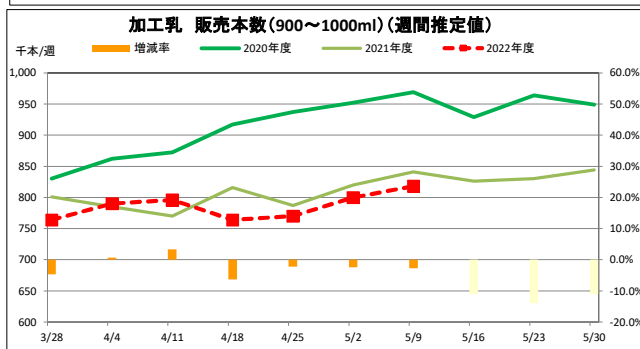
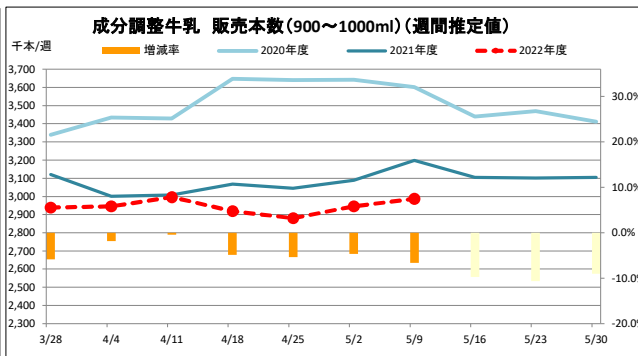
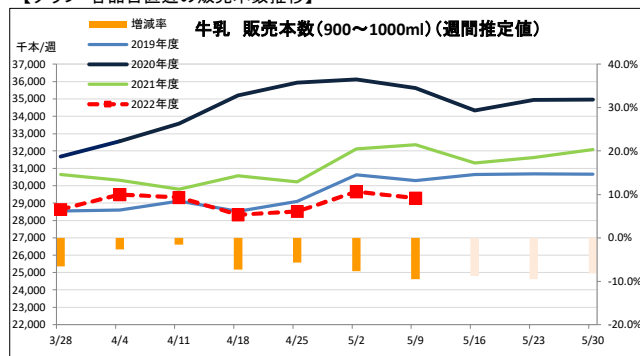
※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 直近の牛乳類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(単位: 千個、円)

品目	区分	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-	4.18-	4.25-	5.2-	5.9-
トータル	販売個数	37,487	37,641	38,712	38,688	37,403	37,448	38,928	38,641
	販売個数前年比	94.8	93.2	97.1	98.5	92.8	94.1	92.6	90.9
	販売単価	182.7	182.7	182.9	182.9	182.9	183.1	183.2	182.6
牛乳	販売個数	28,619	28,639	29,492	29,325	28,330	28,523	29,657	29,285
	販売個数前年比	94.8	93.5	97.3	98.4	92.7	94.3	92.3	90.5
	販売単価	189.3	189.6	189.7	189.9	189.9	190.0	190.0	189.7
成分調整牛乳	販売個数	2,837	2,938	2,945	2,996	2,919	2,880	2,945	2,987
	販売個数前年比	95.1	94.2	98.1	99.6	95.1	94.6	95.4	93.4
	販売単価	173.9	172.4	173.8	173.4	173.4	173.2	173.9	173.3
加工乳	販売個数	754	764	790	796	764	770	800	818
	販売個数前年比	96.8	95.3	100.6	103.4	93.5	97.9	97.5	97.2
	販売単価	191.4	190.1	191.0	190.9	191.1	190.1	190.5	189.1
乳飲料	販売個数	5,277	5,300	5,485	5,571	5,391	5,274	5,526	5,551
	販売個数前年比	94.2	91.3	95.2	97.7	92.1	92.3	92.3	90.7
	販売単価	150.2	150.2	150.0	149.9	149.7	150.2	150.5	149.4

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



## 【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の動向(表②参照)

直近(5/9週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)全カテゴリ総じて前年比90%前後と低調に推移しているものの、販売個数は前週(5/2週)よりも増加した。

【表② 直近のヨーグルト類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

品目	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-	4.18-	4.25-	5.2-	5.9-
ドリンクタイプ	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
個食タイプ	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
大容量タイプ	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	↓	⇒



:前年比90%未満



:前年比105%以上110%未満



:前年比90%以上100%未満



:前年比110%以上120%未満



:前年比100%以上105%未満



:前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」